

〔真俗交談記〕一朝覲行幸之時、御引出物用和琴一張給事、自何御時始哉、資實云、延喜二年醍醐天皇
仁和寺行幸御時、法皇○宇多御對面後、茶二盞有御勸和琴一張、爲御引出物、令進之給、歸幸後、彼和琴
被送進掖主畢、自爾以降、不改其御例、每度如斯云々、

〔花鳥餘情若十九〕宇多御門御出家の後、正月二日朝覲行幸のため、延喜御門○醍醐仁和寺へ行幸あり
し時は、御笏靴をば撤せられて、又手三拜し給へり、又主上にも法皇にも、同御茶を供せし事もあ
り、御法體の時の儀かくの如く、在位の時の禮にかはる事のみあり、

〔新儀式四〕天皇奉賀上皇御算事

獻物之間、供上皇御膳弁備、御臺盤二基安置御前也、參議一人陪膳、殿上四位五位供膳○註次供御
膳臺盤二脚延喜六年次供御酒延喜十六年法供御高坏也、

〔菅家文章詩四〕八月十五日夜思舊有感

菅家故事世人知、翫月今爲忘月期、茗葉香湯免飲酒、蓮華妙法換吟詩、如何露溢思親處、况復潮寒望
闕時、從始南來長鬱悒、就中此夜不勝悲、

〔西宮記臨時一〕御讀經

上卿依仰於陣定僧名○中夏引茶、仰內藏藥殿四位行香、五位六位引茶、甘葛煎所茶藥殿土器等之類○下略

〔江家次第五月〕季御讀經事

上卿一人著南殿例天喜四年、三ヶ日毎夕座侍臣施煎茶衆僧相加甘葛煎亦厚朴生薑等、隨所要施之、
紫宸殿所雜色等參上施件茶於大極殿修時亦同、但茶用器等見所例也、所要施之、

〔西宮記九月〕季御讀經事

先一日○中略、召典藥厚朴爲引茶料○中春夏藏人所引茶初後日御前殿上人引、

〔河海抄十〕季御讀經とは、春秋内裏にて大般若を講讀せらる、也、引茶として僧に茶をひかる也、
中宮東宮これにおなじ、